



## 2005年 謹賀新年

本年も、どうぞよろしくお願いたします

岐阜大学応用生物科学部  
園芸植物生産学研究室  
福井博一

今年はとうとう50歳の大台に達します。  
体力も気力も次第に衰えていることを実感できる年になりました。



シャモは戦うニワトリです。戦うものには凜とした独特の雰囲気があります。私も「人生V S O P」の「P (personality)」の時代に突入しました。私もシャモに見習って凜としたpersonalityを備えた50歳台を目指したいと思います。



去年は、鳥インフルエンザでは色々と話題になりました。しかし、ニワトリが原因というよりもカラスや渡り鳥が・・・必ずしもニワトリが悪いというわけでは・・・ 昨年3月までの国家公務員時代は、これで良かったのです。しかし、大学法人になってからは責任転嫁ではなく、自己責任(?)で解決する意思を持つことが大切なのです。



左の白い小屋は無窓鶏舎といひます。周りの景色や太陽の光すら見ることなく、研究室という隔離されたケージの中で一生を過ごしてい



くのではなく、せめて小さな世界でも良いから外の世界と接点を持って、自由に活動できる自由な生き方をして行きたいと思ひます。



法人になったからといって、自由になったと思ったら大間違いです。やはり一人で生きていくことはできないのです。素晴らしいリーダーに恵まれて、素晴らしい組織を育てていくことも必要なことなのです。組織の中で生きていくことは難しいものです。



ニワトリといえば、世の中に一番貢献しているのは「卵」でしょう。卵には安売りの象徴の「白色の卵」や高級志向の「褐色の卵」だけではなく、「緑色」や「金色(?)」もあるんですね。卵の時から多様性に気が付かないと、そこから育つ雛を教育する者として大きな過ちを犯すかもしれません。



夜明けを告げるニワトリのように、転換期を迎えた園芸業界のなかで、大学教員という範囲を超えて、明日の方向を告げる役割を担いたいと思います。



名古屋コーチンは、歯ごたえ、味わい、コクが特徴です。私も、信念を持った「歯ごたえ」と、「味わい」「コク」のある人間性を備えたいと思います。プロイラーのように飼育慣らされた鶏ではなく、自立した鶏を目指します。



今から7年前にIPPSニュージーランド国際大会に参加して、バンジージャンプを体験しました。「できなかった人」は「chicken T-shirt(臆病者のT-シャツの意味)」をお土産にもらえたそうです。残念ながら(?), 私は「Bungy T-shirt」をもらって帰りました。今年は酉年ですが、「チキン」にはならないように積極的に行動していきたいと思っています。

何はともあれ、私を支えてくれる家族と研究室の学生達が私の財産です。彼らのためにも、もう一踏ん張りしましょう。昨年とは違って、本年が素晴らしい明日を見せてくれる一年であることをお祈りいたします。

